

家族的責任ってなに？

親がわが子を育てる、または子が親の面倒をみるといったように、育児や介護あるいは援助が必要な近親者に対する責任のことをいいます。

家族的責任は誰か担うもの？

もちろん、子育てや介護は、男女がともに担っていかなければなりません。実はこの家族的責任は、1981年にILO（国際労働機関）総会で採択された家族的責任条約（ILO156号条約）にも掲げられています。この条約では、家族的責任をもつ労働者が男女を問わず、差別されることなく働けることと、家庭生活と職業生活の調和が図られることを目的としています。日本も1995年にこれを批准しています。



家族的責任だけでなく、家庭責任も……

そして、当然のことながら、家庭生活を営むには、家事全般の仕事も必要です。このような家庭責任は、女子差別撤廃条約のなかでも「女性と男性がともに担うべき」とうたわれています。

しかし、残念なことに、女性が社会で活躍するようになって、家事・育児・介護の担い手は女性です。社会生活基本調査（平成8年）では、育児・介護を含む1週間の平均家事関連時間は、夫が有職で妻が無職の世帯では、妻が7時間30分に対し、夫は27分。さらに共働き世帯では、妻が4時間33分であるのに対し、夫はわずか20分でした。



家庭生活は男女でわちあいながら

男女共同参画社会を実現するには、家族を構成している男女が、働きながら家族的責任や家庭責任を担っていける社会にしていかなければなりません。

これまでのような仕事中心のライフスタイルを見直すことは、男性にとっても新たな価値観や生きがいを見つけることにもつながるはず。21世紀は、男女で家庭生活をわちあいながら、豊かな家庭を築いていきたいものです。

